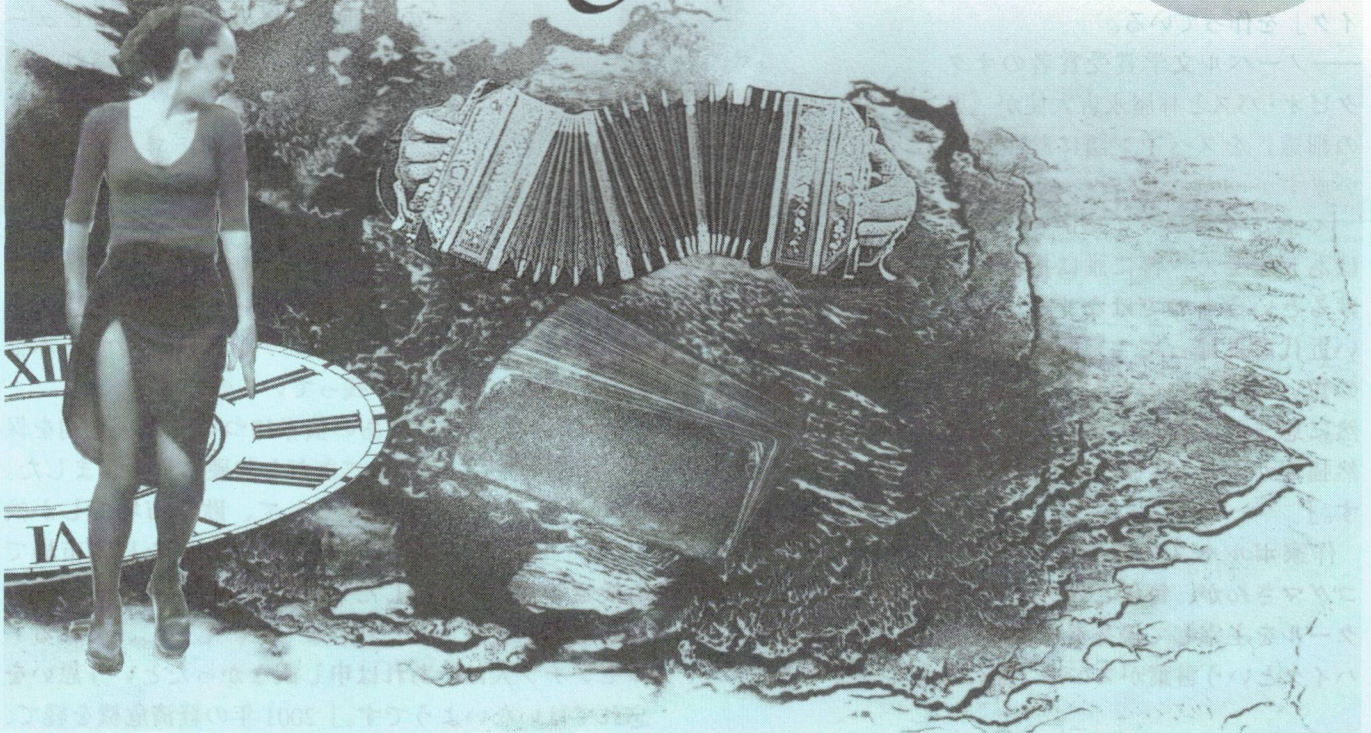


Argentina

No. 52



© 星野 美智子

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2008年7月

盆栽と俳句は人気があります..... 1 ～永井前大使帰国インタビュー～	在亜日本商工会議所「会報」紹介.....6 ～座談会：The sweetest way from Argentina to Japan～
アルゼンチンの知られざる魅力..... 2	タンゴ名曲物語（4）.....11
亜国政治経済短信..... 4 ～フェルナンデス政権半年の成果～	Resumen en castellano.....12
	協会の活動報告.....13
	イベントのご案内.....15



「盆栽と俳句は人気があります」

～永井 前アルゼンチン大使との一時間～

河崎 勳

「びっくりされるかも知れませんが、アルゼンチンの人たちの間で、盆栽や俳句が静かなブームになっていますよ。」

永井慎也大使は、4年3ヶ月のアルゼンチン駐在を終えて今年2月に帰国。

ブエノスアイレスで日本からの講師を迎えて盆栽展を開くと、遠く離れた地方からかけつけてくる人もいて会場は一杯になる。電動のこぎりを使う盆栽が人気

である。「込み入った作業なしに造形を楽しめるというのがいいのでしょうね。」

閣僚ではデビード公共事業相のほかフェルナンデス内相も10数年前訪日して以来の盆栽ファンである。フェルナンデスさんは、「忙しいオフィスから自宅に帰って盆栽の手入れをすると、ほっとして心がきれいになります。盆栽を相手に会話をするという感じですね」と、永井大使に話している。

俳句の方はもっと盛んである。アルゼンチン・ハイク協会がある。日本大使館や在留日本人が関係しているわけではない。アルゼンチンの人たちが自分達の好みで「ハイク」を作っている。

—ノーベル文学賞受賞者のオクタビオ・パスと林屋永吉大使が『奥の細道』をスペイン語に翻訳していますが・・・

「いえ、そういう本格的なものではありません。特に誰に指導を受けるといえるものではなくて。難しい近代詩と違って3行詩というあの短いのがよいのでしょうか。自然に恵まれた国ですから俳句の自然描写が入り易いのではないかと思います。」

作家ボルヘスの未亡人マリア・コダマさんが、毎年子どもたちのためのハイク・コンクールを主宰して優秀者を表彰している。「ボンサイ、ハイクという言葉がスペイン語になっています。」

中国人移住者が増えて、中華レストランや中国人経営のスーパーマーケットが多くなったという。21世紀に入ってアルゼンチンから中国への輸出が伸びたが、中国側からも靴などの軽工業産品が入り始め、アルゼンチン側が輸入抑制措置をとり始めた。中国からの大型投資も期待したほどではないという。しかし、食料については双方の思惑が一致している。「アルゼンチンは、かつてのヨーロッパに代わる農産品の安定的な輸出先として中国市場やインド市場を見えています。」



永井慎也（ながい しんや）さん
外務省中南米審議官、カタール大使、
国際交流基金専務理事などを経て、
2003年11月から2008年2月までアルゼンチン駐在特命全権大使。

「経済活動では、日本は話のレベルが少し違うと思います。」

日本の経済活動は、他の国が手を出せない高度な技術を基盤にしているからである。トヨタ、ホンダの自動車工場の進出やコンピュータ、家電製品工場が歓迎されている。

「やはり一番期待されているのは工場建設などの直接投資でしょうね。」

—以前サムライ債を買って大幅な元本割れになった日本の一般人にはアルゼンチン経済に対する不信感が残っているのでは？

「あの債券については、元利を保証すべきだと強硬に主張しました。妥協策として、欧米市場でしか換金できないというのを日本市場で

も換金できるようにしたり、償還期限を長くして同額の新債券を発行させたりしました。しかし、心あるアルゼンチン人は、あれは申し訳なかったという思いを忘れてはいないようです。」2001年の経済危機を経て、モデストなアルゼンチン人が増えてきてきているのではないかと永井さんは言う。

—日ア間で相手に期待する温度差は？

「今は経済関係ではアルゼンチンの方が高いと思います。ただ日本側では、将来の食料資源確保のためアルゼンチンに対する関心が高くなりつつあるように思います。」

（かわさき いさお 当協会理事）

アルゼンチンの知られざる魅力

郡 亜都彦

アルゼンチンの名前の由来

アルゼンチンの国名はラテン語で銀を意味する“argentum”に由来し、それはスペイン人征服者が初めてラ・プラタ河に漂着した際に原住民から銀製品が贈られたことに遡る。1524年頃、豊富な銀の山があるとの伝説でラ・プラタ河は「銀の河」を意味する名前がついた。

地理的位置、面積と国境

アルゼンチンの面積は、日本の約7.5倍に相当する

約2,800,000平方キロであり、約54%が肥沃な平野、23%が高原、23%が山岳地帯に属している。東はウルグアイ、東北はブラジルとパラグアイ、西北はボリビア、そして西部はアンデス山脈を境界線としてチリと国境を接している。大西洋岸は4,700kmに達する。

気候、地理と観光的魅力

アルゼンチンの気候は極めて変化に富んでおり、亜熱帯から酷寒、高湿と乾燥地帯など変化に満ちた国土を有する。

アルゼンチンと言えば広大な「パンパス」と称する草原に無数の家畜が放牧されているのを想像するが、地理的には東部の広大な平野、西部には最高峰として6,959mのアコンカグアが聳えるアンデス山脈と全く異なった地勢を有する。

北はフイから南端のティエラ・デル・フエゴに至る3,000kmは西北部の高原、砂漠地帯、溪谷、湖、森林および氷河など変化に富んだ観光資源に恵まれている。

東北部のパラナ河とウルグアイ河に夾まれた日本列島が入るくらいの広大なメソポタミアは豊かな動植物が生息する平原と湿原があり、その一角には世界的にも有名なイグアスの滝がある。

南部には一年中強い風が吹きまくる荒涼たるパタゴニア、南米のスイスとも言われる森林と湖に恵まれた景勝地バリロチェ、さらに南のモレーノ氷河は観光地として魅力は尽きない。

北西部のサルタ州やフイ州のウマウアカ地方では郷土色の豊かさに魅了される。

住民、言語と宗教

アルゼンチンの人口は、2007年推計で3,936万人で首都圏、主要都市への人口集中が進んでいる。歴史的にはスペイン人によって植民地として開拓されたこともあってスペイン系、イタリア系のラテン民族が支配的であるが、20世紀に入って第一次世界大戦後にイタ



「月の溪谷」の名称で知られる石像

リア人を中心とするヨーロッパ人の移住の大きな流れが見られた。公式言語はスペイン語であるが、地方によって住民の言語を含めて様々な方言がある。宗教的にはローマカソリック教徒が大半を占めているが信仰は全く自由であり、ユダヤ教、イスラム教、ギリシャ正教、ロシア正教など色々である。

アルゼンチンの歴史、政治、経済関係については、次のようなサイト等で詳しい内容が掲載されていますので、ここでは省略します。

在亜日本大使館

(<http://www.ar.emb-japan.go.jp/japones/homeJP.htm>)

在日アルゼンチン大使館

(<http://www.embargentina.or.jp/keizai/keizai.html>)

日本アルゼンチン協会 (<http://www.argentina.jp/>)

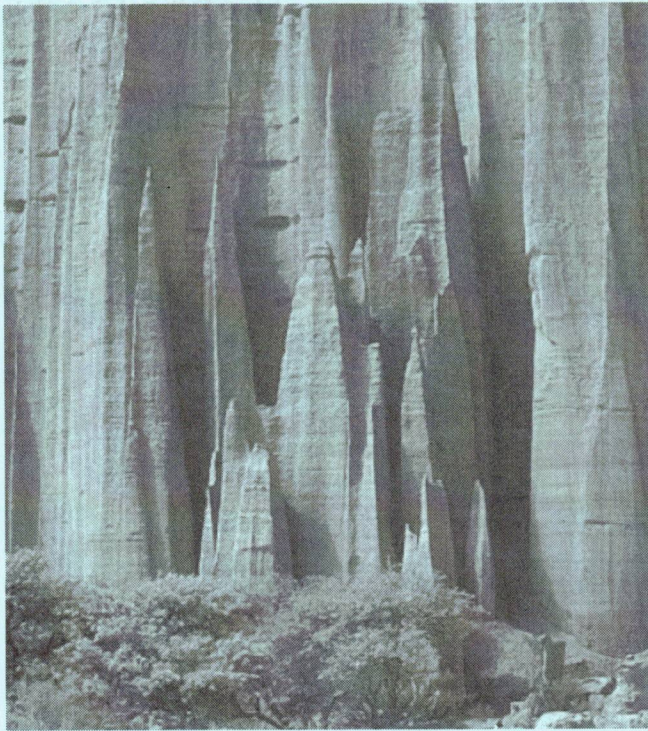
アルゼンチンの知られざる観光資源

読者の皆さんはアルゼンチンを良くご存じでその観光的魅力を知り尽くされているかと思いますが、余り知られていない一見の価値のある場所を紹介します。

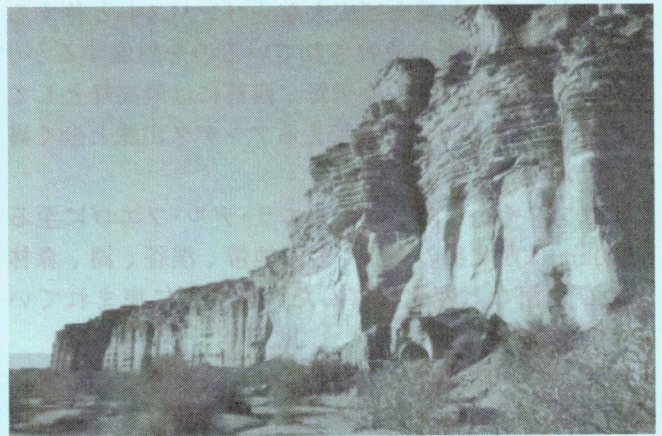
その一つがメンドサの北、険しい道を踏破して辿り着くサン・フアン州とラ・リオハ州にまたがる独特の地質が形成した景勝地、特有の動植物、考古学的、あるいは第三世紀の古生物学的資源に恵まれ、年間30,000人の観光者が訪れるイスチグアラスト州立自然公園、宇宙飛行士が月面着陸した景観に結びつけて名付けられた「月の溪谷」、タランパイア国立公園のタランパイア溪谷など、風雨に浸食された中生代と三畳紀に遡る堆積砂岩の強烈な印象をもたらす自然が横たわっている。そこでは2億5千万年前に生息した最初の爬虫類や哺乳類へと進化した爬虫哺乳類の化石、森の化石、1200万年から1400万年前の石器も発見されている。



チエスの「ルーク」の名称で知られる
タランパイア溪谷のイメージ



「大聖堂」と称するタランパイア溪谷の自然の造形美



石の彫刻画のあるタランパイア溪谷の城壁

(こおり あつひこ；ブエノス・アイレス市在住、元(株)日立製作所アルゼンチン事務所長、元(株)日製産業ハバナおよびメキシコ駐在所長、出版物：研究社「日・英・西 技術用語辞典」小谷倬也氏と共著)



フェルナンデス政権半年の成果

～亜国政治経済短信～

荒尾 保一

(1) フェルナンデス政権の発足

2007年10月の大統領選挙で勝利を取めたクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル大統領は、同年12月10日、下院本会議場において、南米各国の大統領をはじめ世界主要国からの参列者等（わが国からは尾身幸次前財務大臣が出席）を前に宣誓を行い、大統領に就任した。副大統領には、急進党出身のフリオ・コボス氏が就任した。

フェルナンデス大統領は、就任演説において、キルチネル前政権によって進められてきた経済社会諸政策をさらに深化させ、社会連帯を強化する、経済的インフラの充実と技術革新を促進する、人権侵害に対する戦いを継続するなどの内政上の重点政策を説明した。また、外交面では、マルヴィーナス諸島の主権を主張する、テロに対する戦いを進めるなどの方針を強調した。

同日、新政権の閣僚12名が就任した。この政権の特徴は、アルベルト・フェルナンデス首相など前政権の閣僚8名が再任されたことで、フェルナンデス大統領は前政権の実績を高く評価しており、政策の継承を表明しているが、この人事は、キルチネル大統領の影



6月23日 大統領・農牧4団体会談、カサ・ロサーダにて

響力が大きいことを証明したと受け取られている。新閣僚のなかでは、ブエノスアイレス州立銀行総裁マルティン・ルストー氏（36歳）が経済相に任命されたことが注目を集めた。

フェルナンデス大統領の就任直後、同氏の選挙資金を巡る疑惑に関する米国の捜査当局の発表を巡り、亜

米関係が険悪化する事態がみられた。幸いウエイン駐亜米国大使等の外交努力により程なく沈静化した。

一方、キルチネル前大統領は、大統領選挙の期間中に分裂したペロン党の再建に向けて、国会議員、州知事等と会談を行ってきた。1月には、フェルナンデス候補に対抗して急進党を母体に大統領選に立候補したラバーニャ元経済相との連携に成功した。この結果、5月、同氏はペロン党党首に選出された。

(2) 農牧ストの発生

3月、政府は穀物の輸出税制度の改正を発表した。これまで輸出税（正式には輸出課徴金 Retenciones と呼ばれ、経済省令によって改正できる）は、固定税率であったが、これを穀物の国際価格の変動に応じて税率が変動するように改正したもので、一例を挙げると、大豆の場合、2月の価格で、従来の35%から44.1%に引き上げられ（6月の国際価格では47%）、他方小麦等は引き下げられる。Socieda Rural, CRA, Cominagro, Federacion Agrariaの農牧4団体は、この改正に反対して、全国各地でストや道路封鎖等の抗議活動を開始した。

これに対し、フェルナンデス大統領は、このストは富裕層によるピケであり、新制度は大豆生産への一辺倒を避け、小麦などの基礎食料の生産を促すものであり、また所得の再配分をもたらすものであると新制度を擁護している。政府は、農牧団体との対話に応ずるものの、変動税率制度の修正には一切応じないとの態度であり、これに対し農牧団体は4次に亘り100日余のストを展開してきた。政府は、世論が農牧団体非難に向かうことを期待していたと思われるが、教会や経済団体などは農牧業界を支持する意見を表明し、また一般市民からも農牧業界支持のデモが発生した。また、長引くストにより、食料品や食肉の供給が不安定となり、国民生活に深刻な影響を与える状況となった。

このため、政府は、この制度を定めた経済省令125号につき国会の承認を求めるという異例の措置を採った。農牧団体は、ストを終息させ、国会の審議を見守っている。政府及びペロン党は、国会が経済省令を一点の修正もすることなく承認することを期待しているが、農牧団体は修正を働きかけており、国会審議の行方が注目される。

亜国の農業部門は、亜国GDPの10%程度のウエイトを持ち、亜国総輸出額の50%程度のシェアを占める重要セクターであり、この問題への対処が亜国経済の将来に多大の影響を生ぜしめると思われる。

(3) 経済活動

INDEC（国家統計庁）の発表によると、2007年のGDPは、対前年比8.7%の成長であった。同年の高成長の要因としては、直接投資14.4%増、個人消費支出9%増、輸出8.9%増があげられる。亜国経済は2003

年以来5年間連続で8.5%以上の成長で、世界的にも高成長の国の一つに数えられている。2008年に入っても成長は続いており、1月の経済活動指数は前年同月比10.2%の伸び、2月は9.4%の伸びとなっている。1～3月のGDP累計成長率は、農牧ストにもかかわらず、8.4%となったと発表されている。

この高成長に支えられて、亜国は、貿易収支と財政収支の双子の黒字に恵まれている。

2007年の貿易収支は、輸出が前年比20%増の559億ドル、輸入が31%増の448億ドルとなり、貿易黒字は9%減の112億ドルとなった。この傾向は、2008年に入っても継続している。

貿易収支の好調もあり、中銀の外貨準備高も大幅な増加傾向を示し、3月には500億ドルを突破した。

他方、2007年の財政収支は、歳入が前年比30.7%増加した一方、一次歳出が42.3%増となり、プライマリーバランスは、前年比11%増の257億ペソの黒字で、史上最高を記録した。この黒字の最大要因は租税収入の大幅増加によるもので、33.2%増の1998億ペソの税収であった。

このような好景気のなかで、最大の問題はインフレである。INDECは、2007年のインフレ率は8.5%で、前年の9.8%から改善されたと発表している。最近の発表によると、2008年5月の物価上昇率は、算定方式の変更があり直接比較できないが、+0.6%で、1～5月の累計のインフレ率は4%である。

しかし、INDECが発表するインフレ率については、その信頼性を疑う声内外からあがっており、実際のインフレ率は、発表される数字の2倍以上に達しているのではないかとの声もある。

農牧ストの切掛けとなった輸出税率の引き上げを発表したルストー経済相が4月に辞任した。その理由は、インフレを懸念した同相が成長の抑制を含むインフレ抑止対策を大統領に提案したが、受け入れられなかったためと言われている。また、成長重視派のモレーノ内国商業長官との対立のためとも言われている。経済相の後任には、連邦歳入庁長官で、キルチネル前大統領の側近といわれるカルロス・フェルナンデス氏が任命された。

100日余に亘る農牧ストは、好調を維持してきた亜国経済のプレーキとなるのではないかとの観測が流れ始めている。農産品輸出の停滞が外貨の流入を減少させ、ペソ安の原因となるため、中銀が買い支えをしていると言われ、またペソへの信任が低下することが懸念されている。亜国経済は、正念場を迎えていると言えよう。

なお、最新情報に就いては、当協会ホームページ「掲示板」をご覧ください。

（あらお やすいち 当協会常務理事）



読者の憩いのひとときにお届けする 在亜日本商工会議所「会報」

遠藤 建也

在亜日本商工会議所「会報」編集のお手伝いをさせて頂いております遠藤と申します。

会議所広報セクターでは1999年以来当初隔月、現在は四半期毎に「会報」を発行しております。

編集委員は駐在各社・各機関の腕に覚えのあるアイディアマン或いは文才達で毎回ワイワイ楽しく編集会議を開いております。この4月で44号発行となりましたが、各コーナーの記事に就き簡単にご披露させて頂き度く思います。

「巻頭言」は毎回会議所理事がさまざまなテーマで所感を記しています。

「アルゼンチンドリーム」と題された巻頭言では、アルゼンチン縁の著名人の知られざるエピソードが取り上げられています。

「各州だより」は、サンタフェ、コルドバ、コリエンテスなど各州で活躍されている皆さんからの手記です。

大使館、JBIC、JETRO、JICA、ALICなど各機関からの定例情報は現地での仕事・生活のお役立ちマニュアル。

「日本人学校便り」では各先生方のユニークな考察が伺えます。

これ以外の記事は「特別寄稿」とされ、それこそ実に多岐に亘る内容となっています。最近掲載されたものを見て行きますと、当地在住50年超の邦字紙編集長による「郷に入っては郷に従え」シリーズ、単身赴任商社マンの「息子への手紙」シリーズ、各種旅行記(パタゴニア・バルデス半島など国内、ベネズエラ・エンジェル・フォールズ、イースター島、南極、キューバ、ボリビア・ウユニ塩湖、ガラパゴス諸島、メキシコ・ロス・カボス、スペイン・ポルトガルなど)、音楽ネタ(オペラ、タンゴ、カーニバル参加、ラテンポップ・コンサート情報など)、ブログ形式のもの(週末などに当地で行われた音楽、絵画、文化イベントや初めて行ったレストラン、旅行などさまざまなテーマにつき写真入りで日記風に記したもの)、事務局長による「あのCalle

のCalle(亜国歴史の散歩)」シリーズ、当地在住50有余年の紳士による深い思索が記された「随想」、ラミスぺイン語圏の様々な言い方を面白く伝える「愛情表現ゆたかなスペイン語」、ラグビー、サッカー、伝説のカーレーサーFangio、ブエノスアイレス・モーターショー、商工会忘年会顛末記、オンブー会500回記念大会関連記事、アルゼンチン・ワイン、ブエノスアイレス市内や亜日両国にまつわるトリヴィア記事、アルゼンチンの国立公園、日本舞踊のお師匠さんの手記、などなど数多くの傑作記事があります。

「赴任地比較」というシリーズではアルゼンチンが〇ヶ国目という海外駐在猛者達の各地での愉快的苦勞話が語られています。

座談会記事としては「Come Fly with Me」(アルゼンチンと日本を結ぶ様々な航空路のメリット・デメリット・エピソードにつき機長、チーフパーサー、CAなどが語り合う)や「中南米マトリックス」(メキシコ以南中南米18カ国の美男美女度、料理・酒、生活環境、観光資源などを比較し合う)などがありました。

「アルゼンチンのユニーク日系宿めぐり」では首都、カラファテ、ウシュアイアなど各地にある日系宿のことが面白おかしく分かり、アンケート編集記事「不思議の国アルゼンチン」には在住者の皆さんのアルゼンチンでのびっくり体験が満載、同じくアンケートに基づく「ブエノスアイレス奥様情報」ではショッピング、レストラン、カフェなどの最新情報が分かります。

結びに、日本でアルゼンチンを懐かしんで下さる皆様方からの寄稿を楽しみにしております。「OB・OG便り」として掲載させて頂きますのでドシドシお送りください。

ご連絡は akaigisho@netizen.com.ar まで。

商工会議所会員のコメントをもとに、筆者が企画・編集した記事を同会議所の転載承諾を得まして次頁にご紹介します。

座談会：The sweetest way from Argentina to Japan

- 機長：今日はアルゼンチンから日本に行く場合のルートについて、当商工航空 (SHAL) の猛者達に集まってもらい、好き勝手に話し合うことにした。
- ベテラン CA：まあお口の悪いこと。でも地球の反対側同士だからいろんなルートがあるわねえ。
- 整備主任：ブエノス在住の方に人気があるのは、やっぱりサンパウロ経由の JAL じゃないですか？
- コーパイ：そうだね、片道 30 時間近くの旅を日本の雰囲気の中で過ごせるんだから、長旅の疲れも和らぐかな。機内に入ったらすぐにそこは「日本」という安心感だね。やっぱり日本式の本目細かなアテンド、長時間のフライトでも飽きさせない映画・音楽のサービスがいいんじゃないの。
- カラス：妹が乗ったときは、サンパウロでの乗り継ぎが面倒でもかく機内が騒がしかったって言っていた。でもきっと、ただ乗り併せの運が悪かっただけだろうけどね。(注：カラスとはパイロット見習いのこと。機長やコーパイのようにジャケットの袖に 4 本とか 3 本とか線が入ってなくて真っ黒なので)
- 機長：とにかく 30 時間以上も移動していると体はカチコチだし、時差はメチャクチャだし日本に着いても真っ直ぐに歩けんくらいじゃな。帰りはニューヨークあたりで一泊して体を労わったほうがええんじゃ。
- ベテラン CA：サンパウロー成田の移動は、サンパウロー NY と、NYー成田はこの区間の別便を利用すると、待ち時間は長くなるけどビジネスクラスであれば、新機材のフルフラット・シートで寝られるし、食事健康的な日本食が選べる上、エンターテインメントも日本人向けのため、家族連れには何かと助かるのね。
- 新人 CA：私の友達にはダラスやニューヨーク経由のアメリカンが乗り換えが一回で楽だっていう子も多いわ。
- チーフパーサー：この前アテンドしたお客さん曰く、入国審査のたびに不快な思いをさせられるし、一度なんか荷物検査で何度ショルダーバッグを機械に通してもひっかかったことがあって、係官が中身のひとつひとつを調べたので、そのお客さんが協力のつもりで手を出そうとすると厳しく制止されて、結局化粧ポーチの口紅が原因と分かってようやく解放してくれたんですって。ほんと「お手間をとらせました」ぐらい言えないのかと心の中で毒づくのみだったって。JFK が雷雨で閉鎖になってひどい目にあったこともある。でもね、同時多発テロ以前にブエノスに出張した際には、経由したマイアミの入国審査官が「マイアミは素通るか？それは残念、今度は必ず寄ってね」なんていいながらスタンプを押してくれたことが夢のようだったって。
- 整備主任：エコノミークラスは酒は有料、食事はまずいので飛行機の中では禁酒にダイエット。日本にいたときは時差も軽く体調は快調でした。ビジネスだと思わず酒を大量に飲み食事も残らず食べてしまうよね。ビジネスで禁酒とダイエットをすれば一番なんだろうけど。
- カラス：アメリカ経由便でさあ、隣に目の覚めるような美人が乗ってきたことがあるよ。セネガルかどこかアフリカの人でドキドキしたね。でも最初に少し話したただけですぐに眠くなって寝ちゃった。それだけの話・・・。
- ベテラン CA：ニューヨーク経由でケネディ空港の AA のラウンジ (アドミラル・クラブ) の場所が分かりにくくって話も聞いたわよ。
- 新人 CA：ターミナル 8 の左の奥ですよ、先輩。
- ベテラン CA：まあ、紅茶も上手に淹れられないあなたがなんで知ってるのよ。キィ～
- 整備主任：アメリカンについては、こんな声もあるよ。
- ・値段の安さが良い。
 - ・最新映画の鑑賞が可能。
 - ・座った位置が真ん中のライン (5 席分) の端だったが、何故かその内 3 席が空いていて横になることができラッキーだった。
 - ・荷物を経由地の米国で一旦ピックアップしなくてはならないけど、次に預ける場所が分かりやすく紛失の可能性が低いので安心。
- カラス：十年位前まだユナイテッドのブエノスーニューヨーク便が飛んでいた頃、CA にミルクを頼んだら、「大人がミルクを飲むの？」と嘲笑され「None of your business!!」と思わずキレてしまった。それ以来 UA には一切乗ってないゾ。

- 機長 : わしの甥っこは、UAでマイアミ、サンフランシスコ経由東京というフライトじゃった。いまはUAのマイアミ便は飛んどらんがな。マイアミ経由は嫌うもんが多いんじやが、旅情緒を誘う独特な空港の雰囲気が大好きだとかいうてな。英語、スペイン語、ポルトガル語に混じって、ときどきフランス語やジャマイカ訛りの英語が聞こえてきたり、まさに中南米カリブ海の玄関口を感じさせるとか。この雰囲気を味わうためにわざわざマイアミ経由を選んだそうじゃ。日本から来る際にマイアミを経由すれば、マイアミ着陸前、スペイン語の機内アナウンスが流れてきて、あまたラテンアメリカに戻って来た、と感慨もひとしおだろうとも言うておった。
- コーパイ : 関空に帰るんならユナイテッドでワシントンからシカゴに廻る手もあるよ。関空となるとあまりチョイスがないけどね。他社もそうだけど米国系のフライトはエコノミークラスでもアメリカンサイズなので、横幅が若干楽。ただ、シートから床までもアメリカンサイズで高いので、ひざから下がぎりぎりでしか届かない(←「それって足が短いだけじゃん」新人CA)。ひざ裏がシートで圧迫されるので、エコノミー症候群になるのではないかと心配になるよ。それに機体も古く、フライトアテンダントも年季入ってるし。
- チーフパーサー : そうそう通路側で寝てると、CAにワゴンごと直撃食らうのもしょっちゅう。それとラテンアメリカのフライトだと特に後ろの座席の奴が、テーブルの上げ下げをドスンボタンと乱暴にしたり、足で座席の下を蹴飛ばしたり、立ち上がるときに目一杯背もたれに手をかけたり、とにかくお行儀が悪いねえ。
- 機長 : そうじゃ、テーブルの上げ下げはそおっと前の客が気づかないようにすべきだし、座席を立ったり座ったりする時も絶対に前の客の背もたれに触れない。これが一流の客の身だしなみってもんじゃ。
- 新人CA : でも所詮はエコノミークラスの客なんてその程度のレベルなんじゃないの。
- カラス : ったくう、可愛げのない奴だなあ。もうフライト先でおごってやんないからね。
- 新人CA : 毎晩あなたにしつこく口説かれるの、もう疲れちゃった。
- コーパイ : どうどうどう。カラス君ももうすぐコーパイ試験なんだから夜遊びもホドホドにね。新人CAちゃん、僕が面倒見てあげるから。
- ベテランCA : いい加減にしなさいっ！ところで去年から飛び始めたコンチネンタルは機材も新しく、機内プログラムもバラエティに飛んでいて好評らしいわね。
- 整備主任 : ヒューストンのジョージブッシュインターコンチネンタル空港(←長い名前だねえ、それにしても)のEターミナルのラウンジ(プレジデント・クラブ)は高級ホテルみたいな雰囲気だし、コンチのビジネス・ファーストの太平洋便は確かにグレード高いらしいね。
- カラス : ブエノスでお世話になっているある日系企業の社長さんただけど、去年の8月にコンチで日本に出張したら、まずブエノスを出る便が補修部品切れとかで飛ばず深夜まで待って、結局バスに便乗して市内のホテルに連れて行かれたんだって。最初にバスはPanamericanaホテルにストップし、かなりの数の客が降り、その後デフリオを横切って、レコレッタ方面の狭い路地に入っていった。チェッ、俺ビジネスなのに安宿かよお、と嘆いていたらなんとバスはあのAlvear Palace Hotelに。バスのドアが開くとベルボーイが「Bienvenido, señor」と手荷物を持ってくれた。通された部屋は「ゴージャス!!」の一言、何もかも金ピカだったって。シャワーを浴びてフワフワホカホカのベッドに横たわると時刻は早くも2時30分、ったくう、こんなシケたSituationじゃなく、ちゃんとしかるべき人とゆっくり来たかったなあ、とブツブツ呟きながら眠りに落ちた。翌朝は典雅なレストランで優雅に御朝食を。
- チーフパーサー : なんだいそれ？
- カラス : 空港に着くと朝10時に出るはずの便がまたまた遅れて、結局出たのは昼過ぎで、ヒューストンに着いたのは夜中。コンチ本社が準備してくれたのは、Alvear Palace Hotelの正に対極にあるような空港そばのキッチン宿で、腹が減っていたので、シャワーも浴びずにレストランに飛んでいったらもう看板で、百貫デブのブラザーが掃除をされていて「ウーワット??」と睨まれちゃった。
- コーパイ : ケケケケ。
- カラス : 翌朝の成田行きもマタマタ、機体のシステムダウン(エラーメッセージが消えないけど原因不明)とやらで整備士が機体の下に2時間近く潜り込んで大幅遅延で、結局丸一日以上遅れてブエノスの家から東京の家まで65時間もかかったんだって。

- 整備主任 : あの評判のいいコンチがねえ。
- カラス : でもさすがコンチで、帰りは成田空港とヒューストン空港で日本人のマネージャーが話しかけてきて「お客様、何か御不自由はございませんか」って言いながら手荷物持ってくれたんだって。結局、ビジネスファーストだからそれ以上アップグレードして貰うこともできず、それだけだったらしいけど。
- 機長 : くたびれ儲けだな。
- カラス : でもその人、前はヒューストン駐在だったんで、どこ行くのもコンチ使ってすっかりおなじみになり、とてもサービスが良かった、って言った。
- 機長 : ウチも頑張らにゃな。ところで、アメリカへの入国を嫌がって○▲航空で行くって人も多いようじゃが。
- チーフパーサー : 両親が訪垂の際に利用したんですけど、ブエノス→サンチャゴ→トロント→成田ならまだいいけど、さらにカナダ国内でバンクーバーも経由したため、家路の遠さを実感したようです。出発の直前まで知らなかったのではおさら。また、運悪くスーツケースがカナダで積み忘れとなり、後便に積み込まれたのはいいけど、悪天候で関空だったか名古屋だったかに下ろされ、陸路で後になってようやく届けられたというひどいおまけつき。
- 整備主任 : ○▲航空のトラブルなら自慢じゃないが俺だって負けてないぜ。2006年1月の東京→トロント→エセイサの旅では本当に酷い目に遭った。一円でも安い便を、との強い思いでいろいろ探したところ、UAでマイルを貯めていたのでStar Alliance系ということも後押しし、このルートに行き着き、往復税込み14万円という安さに惹かれて迷わず「買い」を決めたところまでは良かった。ところが1月は真冬、往路の東京→トロント便で思わぬハプニングが。大雪でトロント空港が閉鎖されてしまい、急遽モントリオールに着陸、やむなくそこで天候の回復を待つことになった。もともとは5時間以上もの接続時間があったため、「これでトロント空港で時間潰さなくてすむな」と呑気に構えていたが、ここからが悲惨だった。情報が2転3転。「機内待機」のはずが、なぜか当局の指示で全員モントリオール入国、荷物もピックアップする羽目に。あとは地上係員の指示に従えとお決まりの殺し文句。ところが、入国係官には「なぜブエノスアイレスに行く途中でモントリオールに寄る必要があるんだ」と問い詰められ、「てやんでえ、好きで来たわけじゃないっつーの」てなやり取りをすることに。つまり、地上職員は何も事情を把握しておらず、結局出発階に行かされるは散々な目に。
- 機長 : 全くもってお粗末な空港じゃのう。
- 整備主任 : 出発階に行くと同様の仕打ちを受けた連中でごった返しており、長蛇の列。一向に順番がまわってくる気配はないが、列の整理をしているオッサンに聞いても、とにかく並んで待て、の一点張り。この時点で既にその日の南米便への乗り継ぎは諦め、どう予定を調整しようか頭をめぐらせていたところ、別の係員が登場し、南米行き便への搭乗者用に別のカウンターを開けたのでそちらへ行けとの指示があり、その指示に従って名乗り出たものの、他の日本からの乗り継ぎ客達は英語が理解できなかったようで、結局俺が通訳兼ガイドとして他の南米行き日本人搭乗者を引き連れてこの○▲航空職員との交渉窓口を引き受けるハメに。
- ベテランCA : さすが、頼りになるわねえ。
- 整備主任 : 幸運だったのは、その時点で間もなくトロント空港が再開されるとのことで、乗り継ぎ時間に余裕のあった南米乗継者に優先的に振り替え便の席を割り当ててもらえたことかな。結局、なんとかモントリオールからトロントへ戻ることができ、他の日本人乗り継ぎ者10名程度を引き連れて、ぎりぎりゲートクローズ直前、ブエノス行きに乗ることができたのよ。悪天候は不可抗力とはいえ、もう懲り懲りだねえ。
- 新人CA : 東京の○▲航空のスタッフも遠い南米への乗り継ぎ客(エコノミーだったりすると特に)にはとってツツケンドンな対応するって聞いた。
- ベテランCA : あなたももっとお客様に丁寧に対応なさいっ！ところでこないだ聞いた話、出張でメキシコに行かれたお客様、米国(マイアミ)経由なのでスーツケースに鍵をかけず、うっかりAguascalientesまでスルーでチェックインしたところ、Mexico CityでのTransitが5時間待ちだったせいか、Aguascalientesに到着してスーツケースを開けたら、大事なものはすっかりなくなって、おまけに出発前に急いでグチャグチャに詰め込んで荷造りしたため、お土産のDulce de Lecheがスーツケースの中で破裂して、悲惨な状態になっちゃったって。

- カラス : さっすがあ、メキシコ。やってくれるねえ。
- コーパイ : そろそろヨーロッパ周りの話にしよう。ルフトハンザが以前ブエノスからフランクフルトに直行で飛んでいたときは良かったらしいね。今はサンパウロに寄っちゃうから機内待機で、掃除ガーガーされるのでやだっというのも聞くけど。
- チーフパーサー : 2年前のクリスマスの日に搭乗した時は、XmasSong・ケーキ・サンタチョコレートなど淋しい独りぼっちのXmasに華を添えてくれた。途中晴れていてイグア行機を見送り、漸く用意されたVarig最終便まで見られてラッキーだったしね。でもサンパウロルートでバリグでドイツに廻ったときは、遅延遅延の挙句キャンセル喰らって、代替便のAir Franceも搭乗直前にブッキングミスで搭乗拒否となり、泣く泣く6時間待った。ラウンジでおつまみとビールで飢えをしのいでいたところ、待ちすぎの疲労からウトウト。ビールをこぼしてしまい体中ビールくさくなり、ドイツで美味しいビールを飲む気が失せた。
- 新人CA : ふんだりけったりじゃん。
- コーパイ : エアフランスを使った人はドゴール空港のターミナルチェンジが訳分かんなかったって。
- 機長 : そうじゃ、あそこは市内からリムジンで行っても、万一間違っって違うターミナルで降りてしまうと往生こくんじゃわい。
- チーフパーサー : ワイン好きの僕は、パリに最低1泊、できれば数日滞在して、フランスワインを堪能してみたいね。またAFは、機内で出すワインもよい選択をしているので、機内でもワインを楽しみ、アルゼンチンと比較してみたいですね。
- カラス : アリタリヤは行きか帰りにミラノかローマに寄るんだけど、日本に帰る途中にイタリアでおいしいピザってのも悪くないかな。
- 整備主任 : 行きか帰りに一回だけ中途ステイしても通しの料金が出るって聞いた。
- ベテランCA : 時間はかかりそうだけど乗ってみたいというのはマレーシア航空の南ア経由かしら。KLにも寄るんだけど。それぞれ立ち寄ってサファリを見たり、おいしいマレー料理を楽しんだりして優雅な旅ができれば最高ね。
- コーパイ : ケープタウンとヨハネスブルグに寄るんですよね。治安は大丈夫かな。
- チーフパーサー : 2010年にワールドカップをやるうってくらいで、今南ア政府は治安改善に全力を尽くしているらしい。それよかエイズの方がやばいって。
- 新人CA : ウフフ、本当に気をつけてね。身を慎んでください。
- チーフパーサー : いちいち、一言多いんだからあ。
- カラス : ランチレでイースター島とかタヒチ経由、それにオーストラリアやニュージーランドを絡ませるのも人気ありそうですね。
- 機長 : ブエノス勤務を終え帰任する時なんかは、会社もそういう優雅な帰り方を認めてあげてもいいんじゃないかな。
- ベテランCA : イースター島でモアイを見たり、楽園タヒチでのんびりしたり、オーストラリアでコアラと写真に納まったり・・・。
- 整備主任 : イースター島1日観光、そしてシドニーで帰りの時差調整完了・・・！このところ実はLan Chileで何度か不快な思いをしたことがあるけど、昔ペルー出張でAAに乗り遅れた時はLan Chileに助けて貰ったっけ。
- 新人CA : 南太平洋で遭難・・・じゃなくて、タヒチのリゾートに缶詰めになりたいっ！
- カラス : トロピカルドリンクにウクレレ&ギターのタヒチアンMusic・・・！
- コーパイ : まだ行った事のないイースター島でモアイを見て、10年ぶりのタヒチでなつかしのボラボラ島の水上コテージに泊まり、もう一度島の周り一周のジェットスキーを楽しめたらなあ。
- 一同 : われわれ商工航空(SHAL)も独自のルートを開発し、ブエノス在住の皆様の日本行きでお役に立ちたいと思います。それではどうか皆様にとって2007年が良い年となりますように。ジャンジャン！

(えんどう たつや；在亜日本商工会議所会頭、アルゼンチン三井物産社長)



タンゴ名曲ものがたり (4)

～フェリシア Felicia～

石川 浩司

別にマニアというほどでは無くとも、タンゴはわりと好きで聴いている・・・という方であれば、この「フェリシア」という曲はご存知であろうと思う。戦後の社交ダンスが盛んだった時代、筆者はまだタンゴの魅力を知らなかった頃のことだが、街のダンスの教室ではアドルフォ・カラベリ楽団の演奏する「フェリシア」が教材に使われていたと聞く。昭和30年代になってタンゴが一段と盛んになるとファン・ダリエンソ楽団やフランシスコ・カナロが指揮するピリンチョ5重奏団のレコードがよく聴かれていた。



この曲は1907年にエンリケ・サボリード(1878～1941、写真)が作曲した。この人の作品では1905年に作られた「ラ・

モローチャ」が有名だが、これに続いて作られた「フェリシア」も名曲中の名曲である。

この曲が作られて間もない頃、サボリードはある踊り場でこの曲を演奏していたが、まだ名前がつかない。演奏しながら踊り場に目をやると、多数のカップルの中に劇作家のカルロス・マウリシオ・パチェコが夫人のフェリシア・イラレギと踊っているのを見つけた。そこでサボリードはこのタンゴを「フェリシア」と名付けたのであった。夫のパチェコはその後この曲に詞を付け、また自らの劇作品に組み込んでいる。ただ、曲が先に出来ていたため詞は曲のイメージとは関係なくレシタード(詩吟)になっており、歌曲として歌われたことはないようだ。その冒頭部分は「あの遠くの海岸、そこでは海霧の神秘と海の秘密の泡が歌っている。私は打ち返す波を見つめ、ひとり泣きながら・・・」という難しい詞である。なお、日本で発売されたこの曲の楽譜には新町洋子氏の詞が付いている。「広い川のさざ波は　はるかなウルガイのふるさとから　うちよせつ　白いしぶきのカプリチオ・・・」というもので原詞のイメージをある程度踏まえたものになっているが、これが歌われた記憶はない。

右写真はこの曲の楽譜表紙。1920年代まではタンゴの楽譜は版画で美しい色彩を施してあり、わが国の歌舞伎の錦絵を見るようだ。図柄はその曲の主題をイメージにしたものが多いが、この女性はフェリシア・イラレギ夫人なのであろう。なお、1920年代後半になっ

てタンゴがラジオやレコードで広範囲に聴かれるようになると、楽譜の表紙はその曲をヒットさせた歌手や楽団の写真が飾るようになり、大量印刷されたものに変わる。楽譜をコレクションするなら版画のものがよいのだが、最近では入手困難であり価格も高騰している。

さて、この曲を最初に録音したのは、岡山市の藤岡末男氏によれば“ターノ”ヘナロ・エスポシト楽団(1911年ビクター63905)であると言う。その後しばらくは録音が途絶えているが、20年代後半に諸楽団が競って

録音するようになり、のちにダリエンソ、ピリンチョをはじめ各楽団がレパートリーにするようになった。

近年タンゴダンスを中心にしたショウが毎年のように日本を訪れているが「フェリシア」は舞台構成上重要な演目となっている。印象的だったのは1999年のショウ



「フォーエバー・タンゴ」の中でルイス・カストロとクラウディア・メンドーサ(写真左)が踊ったコミカルな「フェリシア」、まさに絶妙の踊りだった。それより前、1989年に来日したセステート・タンゴのショウではイネスとカルロス・ボルケス(写真右)がこの曲を踊っていたがこれも記憶に残る演技だった。



フェリシアが幸福という意味をこめた女性の名前であることも知られていると思う。タンゴのコンサートで司会者がよくこの話をする。日本人で名前に「幸」という字が付く人は多い。タンゴ人でもバイオリン奏者の古橋幸さん、歌手の島サチコさん、バンドネオン奏者の川波幸恵さんなど・・・この方々は揃って独自の道を開くパイオニア的役割を担っている。古橋さんご両親がタンゴ愛好家でもあり、そのものずばりの幸というお名前はこのタンゴにあやかって命名されたのではないかと想像している。バイオリンを学んでブエノスアイレスに留学し、当時コロン劇場やエル・

ビエホ・アルマセンなどに出演していた。現地の楽団で活躍した日本人演奏家のパイオニアである。島サチコさんは日本語でタンゴを歌うことを標榜し、自らのレパートリーに自作の日本語詞を付けて歌っておられる。川波さんは女性バンドネオン奏者のプロ第1号。加えて舞台女優としての経験も積んでおりこれもパイオニアである。名前に幸の付くアーティストが揃って独自の道を開いているのは勿論偶然であろうが面白い。

(いしかわ ひろし；当協会理事)



Resumen en castellano

El bonsai y el haiku son populares (p. 1)

por Isao Kawasaki

Una hora con el ex Embajador de Japón en Argentina, Shinya Nagai. En Buenos Aires, mucha gente asiste a las exposiciones de bonsai. También hay muchos argentinos que disfrutan del haiku. Argentina ve al mercado chino e indio como destinos estables para exportar sus productos agro-industriales. En materia económica, son elevadas las expectativas depositadas por Argentina en Japón. El interés de Japón por Argentina también aumentará al ser éste un proveedor de alimentos y recursos naturales.

Atractivos poco conocidos de Argentina (p. 2)

por Atsuhiko Kouri

Argentina tiene muchos atractivos turísticos. Tiene planicies, desiertos, valles, lagos, bosques y glaciares. Un lugar poco conocido pero muy atractivo es el Parque Ischigualasto, ubicado en las provincias de San Juan y La Rioja. En el Valle de la Luna, las rocas erosionadas por el viento y la lluvia han creado un paisaje impresionante. Se han encontrado fósiles de antiguos reptiles y mamíferos además de bosques petrificados.

Seis meses del gobierno de Cristina Fernández (p. 4)

por Yasuichi Arao

Asociaciones agropecuarias están realizando paros para protestar por la suba de las retenciones dispuesta por el gobierno. No se vislumbra una solución a este problema. Según el INDEC, en 2007 el PBI creció 8,7 % comparado

por Irene Gashu

con el año anterior. El mayor problema es la inflación. En abril, renunció Lousteau y asumió como ministro de economía, Carlos Fernández. La economía argentina está pasando por un período crucial.

Boletín de la Cámara de Comercio Japonesa en la Argentina (p. 6)

por Tatsuya Endo

Quisiera presentarles algunas secciones del Boletín que publica la Cámara de Comercio Japonesa en la Argentina. Hay una nota preliminar en la que los directores de la Cámara tratan diversas materias. También hay secciones para las provincias, las organizaciones como JBIC, JETRO y JICA y la escuela de japoneses. El resto lo componen las contribuciones especiales que tratan una gran variedad de temas. Presentación de la sección titulada: "Come fly with me!"

Serie Melodías Memorables Parte 4 (p. 11) Felicia

por Hiroshi Ishikawa

Compuesta en 1907 por Enrique Saborido. Hasta finales de la década de 1920, solían utilizarse hermosos grabados en las portadas de las partituras. Resultan memorables el baile de Inés y Carlos Bórquez en 1989 y el de Luis Castro y Claudia Mendoza en 1999 que le dieron un toque cómico. Es curioso que varios artistas japoneses cuyos nombres incluyen el carácter chino que significa "felicidad" han sido pioneros en su especialidad.

協会の活動報告

1. 平成 20 年度第 1 回理事会

平成 20 年 5 月 30 日午後 4 時より、今年もポルスキ駐日大使のご好意により、在日アルゼンチン大使館小講堂において、第 1 回理事会を開催した。

土屋会長が欠席の為、定款の定めにより、友國副会長が議長を務め開会を宣言し、現在の理事総数 32 名に対し、出席者 15 名、委任状提出者 11 名、合せて 26 名で過半数に達しており、定足数を満たしていること、並びに尾見監事が出席していることが報告された。議長は、本理事会の議事録署名人に守戸一清氏と高安宏治氏を選任、承認された後、第 52 回通常総会の目的事項として上程する下記の 5 つの議案につき、一括審議することを述べ、各議案の担当理事からの説明を求め審議に入った。

議案 1. 平成 19 年度活動報告

加藤常務理事より、配布資料「平成 19 年度活動報告」に基づき説明があった。また、8 月に当協会に貢献された小林晋一郎理事の逝去により理事総数が 32 名になったことが報告された。

議案 2. 平成 19 年度収支決算報告

白鹿常務理事より、平成 19 年度の収支決算結果は、50 周年記念事業の実施、予算外の PC ソフトの購入などがあった為、予算対比 24 万円余悪化となった旨説明があった。尾見監事より、財務諸表の監査結果、記載内容は正しく示している旨報告があった。

議案 3. 平成 20 年度活動方針

木島理事長より、平成 20 年度は、協会の長期的あり方に影響する公益法人制度改革問題の検討に注力すること、日本寄港が予定されている亜国海軍練習艦の歓迎への取り組み、並びに協会活動・事業の推進に努める旨説明があった。

議案 4. 平成 20 年度予算

白鹿常務理事より、今期の収入合計は 581 万円、全体の収支差額は 23.3 万円のプラス予算を組んでいる旨説明があった。

議案 5. 公益法人制度改革新法による移行問題（報告事項）

荒尾常務理事より、配布資料「公益法人制度改革の概要」に基づいて、詳細な説明があった。

上記の 5 議案は、満場異議なく、原案通り承認・可決された。

2. 第 52 回通常総会

第 52 回通常総会が、平成 20 年 5 月 30 日（金）午後 5 時から在日アルゼンチン大使館小講堂に於いて開催された。

冒頭、友國副会長が開会を宣言し、会場を提供頂いたポルスキ駐日アルゼンチン大使に対し深甚なる謝意を表した。

正会員数は法人 25 社、個人正会員 82 名で議決権総数は 107 個、これに対し当日出席の法人及び個人正会員が 26 名、委任状提出者が 45 名、合せて議決権を有する出席総数は 71 個で過半数を上回って定足数を満たし、総会は適法に成立していることを確認した後、満場一致で友國副会長が議長に選任されて、議案の審議に入った。

前項（第 1 回理事会）に掲げた 5 議案がそれぞれの担当理事より説明があり、総ての議案が滞りなく承認・可決された。

なお、審議に先立って、友國議長は、昨年 8 月に逝去された故小林晋一郎理事の当協会への貢献に深甚なる謝意を表し、併せご冥福をお祈りする旨を述べた。



3. 公益法人制度改革新法による移行問題

公益法人制度改革の概要につきましては、前号（NO.51 会報）にも掲載しましたが、新法の施行により本年12月1日以降、現在の公益法人は自動的に特例社団法人となり、法律による経過措置で従来と殆んど同様の運営を行います。

当協会の移行先法人形態としては、公益社団法人と一般社団法人のいずれかを選択することとなり、本年12月1日以降5年以内に移行申請しない場合は、解散を余儀なくされます。

第52回通常総会で報告した諸点及び本年4月に公表されたガイドラインを踏まえ、当協会の対応方針として、公益社団法人のメリット・デメリットの比較考量、公益目的事業費比率の計算、機関設計と定款変更の3点につき今後詳細に検討を進め、明年以降の出来るだけ早い時期に成案を得て理事会・総会に諮りたいと考えております。

4. 懇親会

5月30日（金）、総会に続き、恒例の当協会懇親レセプションが、ポルスキ大使のご厚意により、大使公邸で午後6時半から約2時間に亘り開催された。当協会宍戸理事の開会宣言、ポルスキ大使の挨拶、友國副会長の挨拶・乾杯音頭で始まり、京谷弘司タンゴ九重奏団のタンゴ演奏が場内を包むと、会場は盛り上がり、盛り沢山のアルゼンチン料理とワインをエンジョイして、時を忘れて、あなたと夜と音楽に楽しまれた宵であったかと思えます。今回は、大使公邸のスペース許容を超える程の160人を越える参加者となり、これまでにない大盛況となりました。このような多数の参加者を受け入れる為に、会場準備にご協力頂きましたアルゼンチン大使館関係者に心より感謝申し上げます次です。



5. 長田小学校（茨城県境町） 「アルゼンチンの日のつどい」

6月6日（金）、75年に亘りアルゼンチンと友好関係を大切にしている茨城県境町立長田小学校の恒例行事「アルゼンチンの日のつどい」が、羽田校長以下全教職員、児童、PTA関係者の主催で、同小学校に於いて盛大に開催された。駐日以来毎年で、5回目の参加となる主賓のポルスキ大使を始めロドリゲス文化担当官、町長、町議会議員、教育長、友好功労者野本勇作氏（今回は子息、野本仁氏が代理出席）など多数の来賓が招かれた。当協会も来賓として招かれ、加藤常務理事が参加した。資料豊富なアルゼンチンの部屋（資料室）見学後、児童と一緒に交流給食、午後体育館でのイベントでは、児童のスペイン語をまじえての歓迎挨拶、校歌とサンバ（アルゼンチン・フォルクローレ；サンバ・デ・ミ・エスペランサ）の斉唱、演劇、鼓笛隊、大正琴演奏での送迎と、盛り沢山のパフォーマンスが、児童・来賓和気あいあいの中で行われ、大使も児童の中に語りかけ、感銘の意を挨拶された。

既にご承知の方が多くはありますが、長田村（現境町）とアルゼンチンの友好の始まりは、1853年（嘉永6年）ペリーの浦賀上陸に始まります。下総関宿藩の右筆（文書記録係）であった「速書きの作次郎」こと野本作次郎氏は、幕府の命を受けペルー一行と幕府側の会談に速記役として参加。1933年（昭和8年）、当時の駐日アルゼンチン代理公使モンテネグロ氏が「祖父がペリー提督に同行来日時、ノモトというサムライにお世話になった」として、関係の方に会いたく希望していることを知り、孫同志、野本作兵衛/同大使両氏が初めて面会、野本氏から家宝日本刀を贈呈した。

以来、歴代の駐日亜国大使と長田小学校との付き合いが続いている。（途中、第2次大戦での20数年間の中断等がありますが）また、1988年4月には当時赤



坂の重国大使公邸の庭石を同小学校校庭に頂き、「友好の記念の碑」とし、当時のエンリケ・ホルヘ・ロス大使出席のもと、その除幕式典が6月2日に挙行された。以来、6月2日を「アルゼンチンの集いの日」と定め、毎年学校行事に位置づけ、本年は20回目となるわけです。また、地元の野本作兵衛氏、モンテネグロ代理公使の両お孫さんが初めてお会いしてから本年は75年目になります。長田村(現在は境町)とその人々をこの上なく愛されたモンテネグロ氏は、自費で集会所(モンテネグロ会館)を寄贈したり、長田小学校に

奨学資金(モンテネグロ賞)の提供をもされ、深く長い付き合いが始まったのです。

校長先生を始め教職員・児童、ご父兄の方々、境町関係者の全員の皆さんの飾るところのないひたむきな活動とアルゼンチン大使の一個人としての深い愛情とこの行事への深い関心により、永きに亘り友好を大事に育てている様子に接し、長田小学校に真の国際友好親善をみて、感銘を受けた次第。

一昨年前から、ポルスキ大使は、毎年長田小学校の6年生を元麻布の大使公邸に招き歓談されている。



イベントのご案内

1. アルゼンチン海軍練習艦「LIBERTAD」、日本に寄港

本年夏8月5～11日、10年振りにアルゼンチン海軍練習艦「リベルタ」が、横浜港に来航、停泊する。

当協会会員の一部希望者の同艦艦内見学について、現在アルゼンチン大使館と協議している。

見学実施時期は、8月7日(木) 或いは8日(金)のいずれの日の午前中(10:00~12:30)を予定している。

詳細決まり次第、ご案内の予定。

2. 「情炎～タンゴ・能・新内が織りなす源氏物語」

～平成20年度文化庁国際芸術交流支援事業～

当協会の正会員香坂 優さんが総合プロデューサー・主演の「情炎～源氏物語」-タンゴと日本伝統芸術のコラボレーションが、本年10月に文化庁・外務省並びに在日アルゼンチン大使館の支援のもと公演される。今年が1000年紀に当たる源氏物語を題材に選び、光源氏への六条御息所(ロクジョウミヤスドコロ)の激しい愛と怨念を三味線、笛、太鼓、タンゴで謳い上げる物語。タンゴの動と邦楽の静、二つの魂がどう溶け合うか、スリリングでエクサイティングな公演が期待される。香坂さんは、アルゼンチンで修業を積み

たタンゴ歌手で、1998年の日垂修好100周年に招かれ、ブエノスアイレス市の公式行事で歌われた歌手で、この3月には、同市に行きアルゼンチン側共演者と接触、打ち合わせを行なっている。浄瑠璃の一つである「新内節」の人間国宝鶴賀若狭氏の出演、デザイナーのコシノジュンコさんが衣裳を担当と、話題の多い舞台が期待される。

東京公演は10月10日(金)ゆうほうとホール(五反田)で、詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

3. 「フリオ・コルタサルー終わりなき旅」展 開催中

アルゼンチン大使館・セルバンテス文化センター共催のアルゼンチンの文学者-フリオ・コルタサルー-「終わりなき旅」展が7月3日から9月3日までセルバンテス文化センター東京 (<<http://www.cervantes.jp>> <http://www.cervantes.jp> 電話 03-5210-1706) で開催されている。

場所:セルバンテス文化センター東京

〒102-0085 東京都千代田区六番町 2-9セルバンテスビル
東京メトロ有楽町線「麴町駅」より徒歩3分

JR「四ツ谷駅」より徒歩7分

4. 9月9日(火)第12回「タンゴ音楽の集い」開催決定

当協会石川理事の名解説のもと、貴重な映像とタンゴ観賞の集い「タンゴ音楽の集い」が、JR新橋駅から徒歩3～4分の光和ビル(当協会事務所の隣ビル)地下2階大ホールで開催決定。

詳細は追ってご案内予定。

当協会事務所職員募集

会員の皆様のお知り合いなどで心当たりの方がおられましたら、是非協会事務所までご連絡ください。(電話:03-3501-4684 FAX:03-3595-3932) 条件等詳細は、ご連絡頂きました際ご説明いたしますが、概略次の通りです。

1. 勤務時間 : 週4日、各日4時間
(13:00~17:00)程度
2. 勤務内容 : 役員の補佐的立場で事務所を運営管理する仕事。(役員は全員非常勤で、パソコンで連絡しながら仕事をしているので、基本的に一人事務所です。)
3. 適用 : 性別、年齢は問いません。パソコン経験のある方で、経理関係の知識・経験が若干あればベターです。
4. 勤務開始時期 : 本年10月1日
5. 勤務場所 : JR新橋駅より徒歩3～4分、
日本アルゼンチン協会事務所

編集長よりの御礼

フロントページの版画は、今回も版画大家星野美智子女史の作品を使用させていただいております。いつもながらのご厚意に対し厚く御礼申し上げます。

執筆・原稿につきましては、プエノスアイレス市在住の郡亜都彦氏並びに遠藤建也氏にご協力をいただきました。

スペイン語のサマリー(Resumen en castellano)は、当協会理事のイレーネ賀集さんに作成していただきました。

末筆ながら、この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。



協会ホームページの活用お願い

<http://argentina.jp>

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ(HP)の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

「イベント案内」「掲示板」への迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。HPフロント画面から、次の通り行い、ご活用下さい。

- (1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、「ユーザー名とパスワードが必要ですよ」との認証画面がでます。
- (2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」(半角英数)を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。
- (3) 次回目からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第52号
2008年7月15日発行

発行人 木島 輝夫(当協会副会長兼理事長)
編集長 加藤 勝巳(当協会常務理事)
編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会
〒105-0004 東京都港区新橋1-17-1
電話:03-3501-4684
FAX:03-3595-3932
E-mail:argentina@nifty.com
URL:<http://www.argentina.jp>

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート